文化情報松山

きらめき

2023

創刊100号記念

「きらめき座談会」創刊100号記念

文化協会インフォメーション

「松山の歴史

子規交交

「地域の宝」磨いて松山の魅力を高めよう
＝ことばを大切にするまちづくり推進＝

きらめき座談会

今回は、『文化情報松山　きらめき』創刊100号を記念して、松山市長 野志 克仁さんと、松山市文化協会会長 土居 英雄さんに、松山の文化芸術の現況と未来について語っていただきました。コーディネーターは本誌編集委員の五百木 幸子さんです。

松山市長　野志 克仁さん

松山市文化協会会長　土居 英雄さん

コーディネーター　五百木 幸子さん

「松山の誇れる文化芸術の振興と継承」を語る

「きらめき」誌面を通して文化振興に貢献

五百木　本誌『文化情報松山　きらめき』も今号で100号という節目を迎えました。

そこで本日は、野志松山市長と松山市文化協会の土居会長のお二人に「松山の誇れる文化芸術の振興と継承」をテーマに、松山の文化芸術について語り合っていただきたいと思います。まず土居会長から、『きらめき』についてお話しいただけますか。

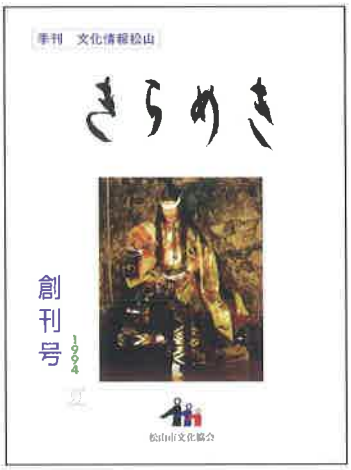
土居　松山市文化協会は、1994年（平成6年）3月に創立され、同年の夏に『季刊　文化情報松山　きらめき』創刊号を発刊しました。タイトルの『きらめき』は、多くの市民の皆さんから寄せられたバラエティに富んだ愛称の中から、文化協会の選考委員会で厳正に審査した結果選ばれたものです。美しく、夢のある語感が評価されています。

今後も『文化情報松山　きらめき』が広く市民の皆さんとの文化の懸け橋となるよう努めますので、温かいご支援をお願いします。

野志　『きらめき』創刊100号、おめでとうございます。前回、この誌面で今井前会長と対談させていただいたのは2011年、私が市長に就任して間もなくのことでした。

長きにわたり、松山市の文化芸術の「継承」と「今」とを誌面を通して伝え、松山市の文化振興に貢献いただき、お礼を申し上げます。

土居　野志市長はよく「地域の宝を磨く」とおっしゃっています。地域の宝には、コミュニティ維持を目的にしたものと、多くの人々を呼び寄せる観光も目的にしたものに分けられるのではないかと思います。私も人口減少社会の今後の方針として両者ともに重要だと思いますが、これからの松山市での「たからみがき」について、市長のお考えをお聞かせいただけますか。



「きらめき」創刊号（1994年夏号）

全国に誇れる宝多い松山

野志　松山市には、瀬戸内海の豊かで美しい自然や、道後温泉や松山城など歴史的な文化、正岡子規ほか多くの俳人を生み、夏目漱石の小説『坊っちゃん』や司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の舞台になるなど文学的土壌をはじめ、全国に誇れる宝がたくさんあります。こうした地域資源を生かした観光産業は、本市の経済基盤や地域雇用の重要な柱です。

今、人口減少や少子高齢化、さらにはウィズコロナや脱炭素、デジタル化など、まさに激変の時代です。それに伴い、市民の皆さんの生活や観光客の皆さんのニ

ーズも多様化しています。限られた財源の中で、そのニーズに応えながら、子どもや孫の世代まで持続可能な松山にしていくには、松山市のこの豊富な宝を最大限に活用し、都市の魅力を高め、生活の基盤である社会コミュニティと、観光産業などの経済が両立したまちづくりを進める必要があります。そのためには、行政、企業、そして市民の皆さんの、前向きで積極的な参画が大切です。

これまで継承されてきた松山にある数多くの宝を市民の皆さんと一緒に磨いて、生かしていきたいと思います。

土居　松山市の宝を生かした取り組みとして、「ことば」によるまちづくりがありますが、最近のスマホ全盛時代も反映して、世代による言葉遣いや話し言葉の理解度もずいぶん変化してきているように思います。

「ことば」によるまちづくりを持続可能なものにするために、若年層に対してどのような施策、アイディアをお持ちでしょうか。

「ことば」を大切にするまちづくり

野志　松山市は、俳句甲子園や坊っちゃん文学賞をはじめ、全国から「ことば」を募集する『だから、ことば大募集』や、そこに寄せられた「ことば」を街に展示する『街はことばのミュージアム』、俳都松山俳句ポストの運営など、「ことば」を大切にするまちづくりを進めています。

２０２０年（令和２年）には、10年ぶりに『だから、ことば大募集』を実施しました。募集テーマは「想（おもい）」。新型コロナウイルス感染症の影響で、会いたい人に会えない、行きたい場所に行けないなど、たくさんの制限がある中、誰かを想い、何かを想い、自分自身を想う機会が増えたからこそ、さまざまな「想（おもい）」のこもった「ことば」が、「ことばを大切にするまち松山」に届きました。10年前と比べ、今回はＳＮＳを使って広報をするなどし全国と海外から、過去最多の２２４４０点、年代別では20代が一番多く、10代からも２７００点を超える応募がありました。インターネットやＳＮＳなどを生かし、気軽に「ことば」に触れてもらう機会を提供することで、若い世代にも「ことばのちから」を届けることができると考えています。

五百木　私も「だから、ことば大募集」には審査員の一人として参加しましたが、ＳＮＳへの反応の多さに驚かされました。俳句甲子園でも若者らしいことばが多くなってきているのでしょうか。

高校生の青春をかける「俳句甲子園」の実施

野志　令和４年は、３年ぶりに、大街道商店街の特設会場で『俳句甲子園』の試合を実施し、全国から多くの高校生が集まりました。俳句は、五・七・五の十七音という世界一短い詩です。その短い「ことば」に青春をかけ、高校生が繰り広げる真剣勝負は、道ゆく人の足を止め、まちに賑わいと活気をもたらしてくれます。俳句甲子園実行委員会のメンバーをはじめ、大会経験者のＯＢ・ＯＧ、多くの企業や市民ボランティアの皆さんの協力で大会を開催できています。次世代を担う高校生が俳句で学校や地域の垣根を越えて、世代間の交流が深められる貴重な機会となっています。

今大会の審査員長の一人、中原道夫先生が、「今年見た１２８０句には（中略）私たちがわからないような言葉を使った句がたくさん出てきた。言葉とは、やはり生活に則して生きているのだなと感じた。」とコメントされていました。

「ことば」は時代によって変化するものもあれば、何年経っても変わらないものもあります。その時代時代のことばや、人々の生活の中で生きていることばを、大切にしていきたいと思っています。

「第25回俳句甲子園」決勝戦（令和4年度）のようす

土居　日常の中で育まれる文化芸術の一つとして、松山市では今年度から、まちの中心エリアである「まちなか」で行われる文化芸術活動を支援すると伺っています。その取り組みには、どのような背景があったのでしょうか。

【まつやまライブ！まちなかパフォーマンス事業】開始

野志　松山市では、文化芸術を生かして、潤い、魅力あふれるまちづくりを進めています。その輪を広げるには、誰もが身近で、気軽に文化芸術に親しめる環境が必要です。

令和５年から【まつやまライブ！まちなかパフォーマンス事業】を開始します。松山市駅前や中央商店街など「まちなか」で演奏や合唱、ダンスなどのパフォーマンスを行い、市民の皆さんが無料で文化芸術を鑑賞できる機会を提供する団体や個人に補助します。活動する人を支援し、また、普段、時間や機会がない方も文化芸術に触れられる環境にし、市内の文化芸術活動を後押しするとともに、賑わいを創り出したいと考えています。

平成元年に松山市と姉妹都市の提携をしたドイツ・フライブルク市では、日常の中に音楽が溶け込み、まちなかで演奏会などが行われ、道行く市民や観光客の心を癒し、まちを明るく彩っています。

松山市では、音楽や美術、演劇、ダンス、能楽など、多様な文化芸術活動が行われています。この事業で、さらに多くの人が、文化芸術を知り、理解し、楽しみ、文化芸術の力で活力のあるまちにしていきたいと考えています。学校や部活動はもちろん多くの皆さんに、日頃の練習の成果を発表する機会として活用いただければと思います。

松山市民文化祭 芸術祭のようす

土居　松山市民の文化活動を活性化していくために、各種文化活動の活発化や発表の機会の多様化が必要であると考えていますので、【まつやまライブ！まちなかパフォーマンス事業】は、松山市文化協会の会員にも積極的に活用してもらいたいですね。そんな中で、松山市文化協会の役割の重要さをあらためて痛感していますが、市長が松山市文化協会に期待されているのはどういう点でしょうか。

文化の力で より優しく より強い まつやまへ

野志　長引くコロナ禍や、物価高騰の影響が続いています。そんな時代だからこそ、私たちの心を動かし、人と人とのつながりを生み、心豊かな地域社会をつくる文化芸術が大切だと感じています。

文化芸術を継承し、発展させるとともに、人と人を結ぶため尽力されている文化協会の皆さんの取り組みは重要です。会員同士の交流や親睦に加え、文化協会に所属されていない団体や個人の方と連携や協働するなど、文化協会を起点に文化芸術の新しい好循環が生まれることも期待されます。

そしてこれは、これまで受け継いできた松山市の多様な文化によって、活力ある地域社会を形成するもので、私が掲げる『より優しく より強い まつやまへ ～一人でも多くの人を笑顔に～』のまちづくりにもつながります。

松山市文化協会の皆さんには、これからも松山の文化芸術を先導していただきたいと思います。

五百木　野志市長、土居会長、お忙しいなか、ありがとうございました。

向かって右から野志市長、土居会長、五百木編集委員

「きらめき」創刊100号を振り返って

『文化情報松山　きらめき』は、平成6年（1994）3月22日、松山市文化協会の設立にともない同年夏に第1号が発刊されました。

早いもので、この春100号を迎えます。当初は年4回、B5判、28ページでスタートしました。その後、形や回数を変えながら現在のスタイルになりました。

この「きらめき」は、編集委員や文化協会事務局が毎回編集会議を行い、読者に「面白く読んでもらえる企画を」と意見を出し合っております。

一部を紹介しますと四季折々の花と俳句や短歌を組み合わせた「松山花ごよみ」、国際交流をテーマにした「地球サイズの友情を求めて」、古代松山人の暮らしを解説した「むかし昔のまつやま」、松山の郷土料理を紹介する「食の散歩道」、郷土の偉人を掘り起こして紹介する「松山・人・彩時記」（のちに単行本化）、現代詩の紹介と解説に力を注いだ「きらめき詩人」等、多彩な内容でした。

ある時、「たまには君が書きなさいよ」と言われ、面白い題材はないかと悩んでいた時、何かの本で子規が美食家で、大食いだと知りました。僕は松山に生まれ育ったのですが、恥ずかしながら俳句はまったくの門外漢。正岡子規といえば、明治時代を代表する文学者であり偉大な俳人です。しかしながら、食事にピントを合わせれば自分との共通点が見え、何かしら記事に出来るのではと思ったのです。

ある日、子規の食卓を松山市内の料理屋さんに再現してもらえることになりました。ボクの空想を交えた短文も添えました。題して「子規の食卓」。食をめぐる子規の蘊蓄（うんちく）や失敗譚（しくじりばなし）は、面白く、僕の中には、会ったこともない子規に対する親しみが芽生えてきたのでした。本当に楽しい取材でした。おかげでシリーズとなり、なんと21回も続きました。ありがとう子規さん。

「きらめき」100号を記念して、子規の『筆まかせ』の中の「よく伊予松山といふやうなよき処に生れ　よく我内に生れ…能くも我身に生れたるよと思ふことあり…我故郷を愛し　我親を愛する…」という力強いメッセージを贈って読者の皆様と一緒に創刊100号を祝いたいと思います。

（長島 幸雄）

明治23年1月5日、三津の料理店「いけす」で食べた鯛の刺身や吸い物、サザエの壺焼き、ホゴの煮つけ等、この日は秋山真之や柳原極堂も一緒で、大いに盛り上がったと言うことだ
（2002年新春号・子規の食卓より）

第30回二之丸薪能　5月11日

松山の伝統芸能、能楽の夕べをお楽しみください

【開催日時】
令和5年5月11日（木）
18時～20時30分頃（開場17時）

【会　場】
松山城二之丸史跡庭園内　特設能舞台
※雨天の場合は、松山市民会館中ホールに変更、開演を18時30分に繰り下げます。

【料金】（二之丸史跡庭園入園料を含む）
一　般　1，400円
市文化協会会員　1，000円
高校生以下　700円

【演目】
舞囃子（宝生流）＝「三輪（みわ）」
舞囃子（観世流）＝「清経（きよつね）」
狂　言（大蔵流）＝「萩大名（はぎだいみょう）」
―火入れ式―
舞囃子（喜多流）＝「百萬（ひゃくまん）念仏（ねんぶつ）」
能　（金剛流）＝「殺生石（せっしょうせき）白頭（はくとう）」

【招待】
松山市内の小学生とその家族を公募で無料招待します。
（10組20名程度）

春季生活文化部展示会　4月22日・23日

松山市文化協会の生活文化部に所属する団体が、洋蘭と帯結びを展示します
色鮮やかで多種揃った「洋蘭」と華やかな「帯結び」で春を感じませんか
ぜひ足をお運びください

【開催日時】
令和5年4月22日（土）23日（日）
午前10時～午後4時

【場　所】
松山市総合コミュニティセンター展示室1

【料　金】
観覧料無料

二之丸大茶会　5月13日・14日

愛媛県茶道連盟松山支部に加盟する7流派のみなさんが2日間にわかれてお点前を披露します
お茶室や新緑薫る中で開かれる野点に立ち寄って、心豊かなひとときを過ごしませんか

【開催日時】
令和5年5月13日（土）14日（日）
午前10時～午後3時

【場　所】
松山城二之丸史跡庭園内の各所

【料　金】
お茶券　400円
※二之丸史跡庭園入園料が必要

※新型コロナウィルス感染状況によって、イベントを中止（延期）する場合があります。

【問い合わせ先】松山市総合コミュニティセンター内 松山市文化協会☎089(909)8008

漱石先生も釣りしたのかな…

夏目漱石の小説『坊っちゃん』の中に釣りのシーンが描かれています。場所はこの四十島沖のような気がします。

▲松山市高浜沖に浮かぶ四十島

チョーさんの釣れる！サイト
釣りちょーさん　検索
http://tyo-san.co.jp

小学生俳句教室

8月3日に松山市総合コミュニティセンターで、「小学生俳句教室」を開催しました。「松山俳句協会」の協力により、低学年と高学年の部に分かれて俳句の基礎を学びました。季語を連想するものを見て、その場で感じたことや思ったことを表現して俳句を作りました。短冊に清書したものを皆で選句し、共感して俳句を身近に感じる体験をしました。

小学生俳句教室のようす

第41回松山市民文化祭　美術展

出品作品327点展示

9月30日から10月4日までの4日間（10月3日は閉館）、松山市総合コミュニティセンター・企画展示ホールで開催した美術展は、〝無鑑査方式〟により応募作品327点を全て展示しました。

この美術展は、市内の美術愛好家の創作活動発表の場として、また市民が身近な芸術に触れる機会として定着しています。昨年に引き続き感染症防止対策を徹底して実施しました。

開展式は規模を縮小して開催、また審査員による特別鑑賞会は作品脇に評価のポイントを掲示しました。

会期中は約880人の来場者があり、市民の力作に見入っていました。

美術展開展式に於ける受賞者のみなさん

美術展のようす

第41回松山市民文化祭 芸術祭を開催しました

第41回 芸術祭

音楽、舞踊、芸能部門の 46団体 約1230人来場

10月16日と23日の両日、松山市民会館大ホールで、協会に加盟する音楽・舞踊・芸能部門の団体による芸術祭を開催しました。46団体約540人が日頃の研鑽の成果を発表しました。感染症防止対策をした会場には、両日を合わせて約1230人が来場。演目が終わるたびに、出演者に大きな拍手が送られていました。

また、恒例の「抽選会」は、座席番号を抽選券として、1等のみ会場で抽選。残りは後日実施し、当選結果は発送をもって発表に代えさせていただきました。

●10月16日(日)

①YELLOW STONES
②NAO DANCE STUDIO
③HULA KUMI EMA
④Hula Makahou
⑤レイアロハグループ
⑥ロケナニ フラスタジオ
⑦ハーモニーアルコ
⑧愛媛大学ギタークラブ
⑨レアル・アカデミア・ラ・シージャ
⑩ノエミフラメンコスタジオ
⑪一色美和フラメンコGRACIA
⑫久保勝鼓フラメンコ・スタジオ
⑬Estudio La Fuente
⑭Feel Dance Academy
⑮美佳バレエスクール松山
⑯バレエ・スタジオ・ミーム
⑰ひめバレエスタジオ
⑱愛媛バレエアカデミー
⑲みあきバレエ研究学園
⑳真美フレッシュ体操 武田教室
㉑アサダ・ダンス・スタジオ
㉒森田康二ジャズダンススタジオ

●10月23日(日)

①創流民謡会
②都山流尺八中予幹部会
③Michiyaの会
④生田流箏曲地唄三絃 芙蓉会
⑤伊予民踊研究会
⑥筑前琵琶 一紅會
⑦日本舞踊河藤流河髙会
⑧若柳流 明珠会
⑨北久米町獅子舞保存会
⑩中島築山会
⑪清の糸道 合奏団
⑫松山杵家会(弥代葉社中)
⑬長唄 杵家派 弥藤会
⑭紫雲館吾妻流剣詩舞道
⑮風早会
⑯久谷地区伊予八百八狸保存会
⑰藤間流 ひな弥会
⑱泰鳳会
⑲沢井箏曲院 琴泉会
⑳愛媛県民踊指導者連盟
㉑伊予源之丞保存会
㉒藤間流 藤幸会
㉓藤間流 歌登美会
㉔藤間流 藤々会

秋季生活文化部展示会

11月5日・6日に、松山市総合コミュニティセンター・展示室1他で、「松山つばき会」、「愛媛バラ会」、「八石之会」、「公益社団法人全日本きものコンサルタント協会愛媛県」、「伊予拓本研究会」の各会員による作品展示を開催しました。

つばき51点、バラ79点、水石10点、帯結び12点、拓本19点が展示され、いずれも劣らぬ見事な出来栄えに、多くの来場者が見入っていました。

【松山の歴史】（その四）

松山の歴史地名二
―昭和十五年の「松山町名考」から―

伊予史談会副会長
柚山 俊夫

花園町と新玉町

伊予鉄松山市駅から北へ、堀之内へ向かう幅広い道筋の東側がもとの花園町です。新玉町は、花園町のすぐ西側一帯に昭和三十九（一九六四）年まであった町名で、現在、市役所第四別館がある三番町六丁目や千舟町六丁目にあたります。平凡社『愛媛県の地名』と角川書店『角川地名大辞典38愛媛県（愛媛県地名大辞典）』では、花園町と新玉町ともに、江戸時代の史料や城下町図に町名がなく、江戸時代末期に町名が公称されるようになったと記述しています。前回紹介した嘉永の絵図や万延の絵図にも、花園町や新玉町の名はありません。そして、明治五（一八七二）年には両町名が記録されています（「大小区数村名取調帳」）。

「松山町名考」筆者の田中蛙堂は、花園町について次のように述べています。

むかし藩の花園があつた処でヤハリ元藤原の一部、追々と家屋が殖えて来るので其花園は（中略）お築山の花畑に移し、其跡を記念のため町名に残したのだといふ

花園町は西堀端のすぐ近くですが、あたりは「元藤原」、つまり城下ではなく、その南西に接する藤原村の地で、花園（花畑）があったのです（絵図参照）。そこに家が立ち並び町場になったので、花畑を築山町（お囲い池があった）へ移し、町名に残したというのです。

また、新玉町について、田中は次のとおり述べています。

新玉町も今より七、八十年前には藤原新町と云つて居たが、当時第十五大区の副区長だつた岡本尚章氏に対して町民達が何か目出度い名前をつけてもらひたいと望み、岡本氏が「目出度いことは数々あるが、何時でも誰でも等しく目出度いと感じることは、年立ち返る新玉のお正月に越すものはあるまい」とて新玉町と命名したのだと聞いて居る

新玉町など松山市街が「第十五大区」と呼ばれたのは、明治五年八月からです。また、岡本尚章の履歴書によれば、明治五年六月に「一大区副戸長」、六年一月に「依願第十五大区副戸長差免」となっています（「官吏履歴」）。一大区が十五大区に改称されたのは五年八月、戸長を区長に名称変更したのは六年二月です。田中蛙堂が命名者として挙げた岡本尚章が、明治五年八月から十五大区副区長（正しくは副戸長）であったということが確認できます。新年のおめでたい名前ということで、藤原新町が新玉町に改称されたのは、地名辞典が述べた江戸時代末期ではなく、明治五年後半のことでしょう。

番町と千舟町

一番町、二番町、三番町は松山市街の中心地です。田中は次のように述べています。

一、二、三番町は古い地図を見ると、代官町一番町、代官町二番町、代官町三番町と書いてあり、千船町は代官町四番町、又の名を山手代町となつて居る、一番町は奥平、伊藤、菅など家老級の屋敷があつた町で、二番町三番町も勘定奉行とか馬廻りとか本侍の家が立列んで居たものである、此各番町を貫く横町には格別之と云ふ名前はなかつたやうであるが、現今番町小学校のある町は昔藩の侍どもが乗馬の稽古をする場所となつて居たので「馬乗町」と云はれ

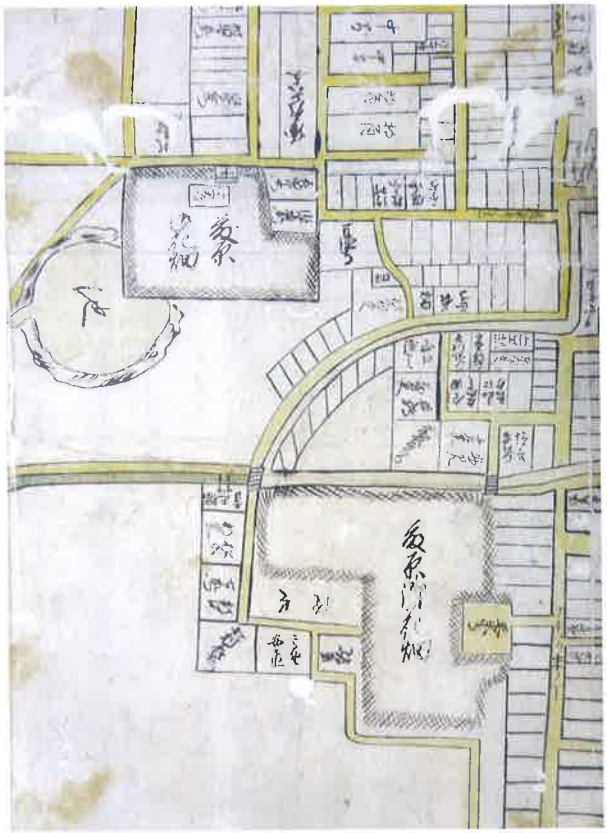


図　17世紀の松山城下図に描かれた「藤原御花畑」
2か所あり、北は万徳寺西側、南は正宗寺西側にある。

柚山先生のプロフィール
柚山　俊夫（ゆやま としお）
●一九六一年今治市菊間町生まれ
●愛媛大学を卒業、県立高校や県生涯学習センターでの勤務ののち定年退職、現在は県立図書館で文書目録作成に従事。

て居つた

江戸時代には、代官町一番町、代官町二番町、代官町三番町、代官町四番町という町名であったことが分かります。さらに、現在松山市役所が立地する場所（番町小学校の旧所在地）のあたりを馬乗町と呼んでいたと述べています。そのすぐ北には明教館があり、江戸時代、堀端東側が若者の文武鍛錬の場であったのです。

さらに、番町小学校の命名について、おもしろい指摘があります。

松山市の尋常小学校は、其創立年月の順を逐ふて第一から第七までの数字を校名に冠らせてゐたのであつたが、之あるが為に学校其物の優劣があるかの如き誤解を抱かしめる様なことがあつてはならぬと、時の市視学で教育課長だつた和田克徳氏が校名は其所在地名を冠することに改正、昭和十四年第二を味酒に、第三を八坂、第四を東雲、第五を新玉、第六を清水、第七を藤原と改めることにした、以上は難なくつたが、「第一」は其所在地が榎町で、停留所名も今日の市役所前を榎前と呼んでゐた時代であつたから、榎前、榎町、八ツ股など考へたけれど、ドウモ面白くない、和田氏は千思万考の後、遂に番町と命名したのであつた、其後学校其物が現在の処へ移転したのだが、移転後、此校名が却てよくシツクリとはまることになつた

この記事のうち、昭和十四年は昭和四（一九二九）年の誤りです。当時、ナンバースクールが学校の優劣を表すとする偏見があったのでしょう。番町は、学校の立地場所の地名ではなく、その東に広がる一番町～三番町の名から命名されたことが分かります。

次に千舟町の命名について。千舟町も、江戸時代の絵図にない町名ですが、明治五（一八七二）年には、千船町の名が記録されています（「大小区数村名取調帳」）。田中蛙堂は次のように述べています。

代官町四番町を山手代町と云つたのは、山手代（今日の森林官吏）の住宅が多くあつたからであるが、廃藩後之が町名改定にあたり、当時の区長だった広瀬唯七氏（湊町に住し祝渓と号す）が同町の一端に立つて見ると、其町内の侍屋敷の屋根が皆藁葺で高低も少く、さながら満帆の百船千船が入り来るさまに似たりと云ふので「千船町」と名づけたのだと聞いてゐる

広瀬唯七が「区長」であったと彼の履歴書に記載されていませんが、岡本尚章と同じく明治五年六月から「一大区副戸長」、次いで「十五大区副戸長」でした（「官吏履歴」）。こうしたことから、代官町四番町あるいは山手代町が千舟町と改名されたのは、新玉町などと同じく、明治五年後半とみてよいでしょう。

ロケナニフラスタジオ　舞踊部門

～「ロケ」はバラの花、「ナニ」は美しいという意味～

初代「ロケナニスタジオ」主宰者ロケ・ナニ・田中さんは、現在の代表者 滝口 潤子さんの叔母にあたり、30年以上の指導歴がありました。

滝口さんは、2000年に教える側としてのキャリアをスタートし、2021年８月初代主宰者の引退を機に、「新ロケナニフラスタジオ」として組織を新しく編成しました。

現在は、スタジオが５クラス、年齢や地域の目的別に各教室があります。１回60分～90分のレッスンが月３回。毎日３～７講座が月～土曜日まであります。

スタジオ以外のカルチャー教室では、７人のインストラクターがおり、全員キャリア10年以上の「アラカイ」です。

フラはハワイ語で「踊り」という意味ですが、祈りでありココロの言葉です。「ロケナニスタジオ」はハワイアン文化への尊敬と感謝を忘れず研鑽努力し、踊る人も見る人もシアワセを感じるような愛に溢れたフラを目指しています。

月曜日クラスのみなさん

代　表
滝口 潤子さん

今年は10月の「松山市民文化祭　芸術祭」に出演予定。また、11月12日（日）松山市総合コミュニティセンターキャメリアホールで「ロケナニフェスティバル」を開催予定です。是非お越しください。

【問い合わせ先】「ロケナニフラスタジオ」
代表：滝口　潤子　090(8725)4044

日本古典文学愛好会　文学・文芸部門

～「新潮日本古典集成　源氏物語」の講読と解釈～

日本古典文学愛好会は2003年４月１日に発足し、現在会員数は13人です。毎月第２・第４火曜日の午前10時15分～12時松山市三番町のコムズで「新潮日本古典集成　源氏物語」の講読と解釈を愛媛大学文学部の西　耕生教授を講師に招いて行っています。

この講座の一番の魅力は、何と言っても西先生のお人柄の素晴らしさです。いつも感動と元気を頂いています。

授業風景

作品の当時の時代背景や登場人物の心の機微まで詳細に分かり易く教えて下さるので、様々な生き方に共感し、興味がつきません。

日本古典文学愛好会のみなさん（前列中央が西教授）

今後も、幅広い年代の方々と学べる事を願いながら、いつものように「来てよかった」と皆さんと感動を共有しながら末永く続けていきたいと思っています。

【問い合わせ先】「日本古典文学愛好会」
代表：櫻井　ひろ子　090(7224)1602

ひめバレエスタジオ　舞踊部門

～何よりもレッスンを楽しんで～

ひめバレエスタジオは2021年９月にスタートしました。当時10人だった生徒は、今は60人となりました。年齢は２才から70才、クラスによって週１回から週４回まで時間は45分～60分です。１クラスは８人までとし、６人の講師が受け持ち、日々レッスンに励んでいます。

バレエの魅力は美しく伸びた姿勢だと思います。舞台で踊る時も笑顔と姿勢は何より舞台 映えします。

美しい姿勢

生徒の皆さんには、集中しながらも、レッスンを楽しんでいただきたいと思っています。

バレエを身近に感じていただくために、優しく教えることを心がけています。

カワイイ生徒さんのレッスン

今年は７月にIYO夢みらい館で「第２回ひめバレエスタジオ発表会」を行います。

【問い合わせ先】「ひめバレエスタジオ」
代表：大野　拓都　080(3924)1944

子規交交 ―しきこもごも―

◎第四回　百に満ちた

坂の上の雲ミュージアム 学芸員／子規庵宇宙の会会員　上田一樹

この度、「きらめき」が百に満ちた。私自身、子規の研究を続けてきて、このような節目の号に執筆する機会をいただけたことに感謝を申し上げたい。

さて「百」と言えば、子規の文章にも実に印象深い「百」がある。それは、かれの最晩年の随筆「病牀六尺」の第百回。「病牀六尺」は明治三十五（一九〇二）年五月五日から九月十七日まで、新聞『日本』に連載された。この第百回は、数多ある子規作品の中でも、私が最も好きな文章のひとつである。以下、やや長くなるが全文を挙げる。

百

○病牀六尺が百に満ちた。一日に一つとすれば百日過ぎたわけで、百日の日月は極めて短かいものに相違ないが、それが予にとつては十年も過ぎたやうな感じがするのである。外の人にはないことであらうが、予のする事は此頃では少し時間を要するものを思ひつくと、是がいつまでつづくであらうかといふ事が初めから気になる。些細な話であるが、病牀六尺を書いて、それを新聞社へ毎日送るのに状袋に入れて送る其状袋の上書をかくのが面倒なので、新聞社に頼んで状袋に活字で刷つて貰ふた。其之を頼む時でさへ病人としては余り先きの長い事をやるといふて笑はれはすまいかと窃に心配して居つた位であるのに、社の方では何と思ふたか、百枚注文した状袋を三百枚刷つて呉れた。三百枚といふ大数には驚いた。毎日一枚宛書くとして十箇月分の状袋である。十箇月先きのことはどうなるか甚だ覚束ないものであるのにと窃に心配して居つた。それが思ひの外五六月頃よりは容体もよくなつて、遂に百枚の状袋を費したといふ事は予にとつては寧ろ意外のことで、此百日といふ長い月日を経過した嬉しさは人にはわからんことであらう。併しあとにまだ二百枚の状袋がある。二百枚は二百日である。二百日は半年以上である。半年以上もすれば梅の花が咲いて来る。果して病人の眼中に梅の花が咲くであらうか。

（八月二十日）

本連載の第一回で触れたとおり、当時の子規は脊椎カリエスのために寝返りすら打てない状態であり、日々高熱や激痛に苛まれていた。それでも、食べることが大好きだった子規は、食事により栄養を摂りながら病魔とたたかっていたが、歯痛や腹痛にも襲われ、頼みの食欲も減退の一途を辿っていた。

文中にあるように、余命を意識しながら毎日を生きていた子規にとって、百日の連載は余人には想像もつかない特別な思いがあったことであろう。少し時間を要するものを思い付くと、いつまでそれを続けることができるかを最初から考える、と吐露したことにも首肯できる。

病床から動けない子規は、毎日の原稿を日本新聞社へ送ることになるが、連載にあたって送付専用の状袋（書類や手紙を入れる封筒）を百枚、社へ依頼した。子規は、実感や体験をもとに文学革新運動を展開したリアリストであり、悪化する病と向き合いながら「百」という数字を設定したのであろう。しかし、社から届いたのは三百枚。約十ヶ月分であった。

印刷部数の決定権を持っているのは、無論、社長兼主筆の陸羯南である。羯南は子規の叔父加藤拓川の親友で、記者としての子規を育て、活躍の場を与えただけでなく、父代わり、兄代わりとして子規を支え続けたひとであった。しかも、当時の社の経営は芳しくなかった。新聞『日本』は、時として政府にも牙をむいた硬派な論説新聞であり、それゆえ、度重なる発行停止処分を受け経営難に陥った。羯南自ら近衛篤麿ら政治家たちに、援助を求めて奔走するような状況にあった。

それでも、日本新聞社は三百枚もの状袋を印刷して送った。それは、羯南をはじめ、社の仲間からの「一日でも長く生きて、連載を続けて欲しい」という激励にほかならない。現実を見据えた枚数を注文した子規にとって、このはからいは驚きつつもさぞ嬉しかったに違いない。

日本新聞社の社主・陸羯南
（「近代日本人の肖像」国立国会図書館）

そして、最後の「梅の花」のくだりは、まさに詩人としての子規の面目躍如たるものがあろう。様々な感情が入り混じりながらも天然の機微に思いを寄せた、美しい余韻が残る文章である。結局、「病牀六尺」は子規の死の二日前、九月十七日まで百二十七回を重ねた。子規は半年先の梅の花を見ることは叶わなかったが、日本新聞社員であることを誇りに思いながら逝った。

「病牀六尺」の第百回には、病床で文学活動を続けた子規のきらめきが凝縮されている。「きらめき」も百号をきっかけに、二百、三百と号を重ねることを願う。

『坂の上の雲』完結50周年
坂の上の雲ミュージアム　第16回企画展テーマ展示

明治日本のリアリズム―未来へ

生まれたばかりの近代国家〝明治日本〟の中で、人びとは何を考え、どのようにふるまったのでしょうか。

日本は西洋をモデルに憲法や国会をつくり、わずか30年ほどで近代化を推し進めます。１９０４（明治37）年に始まる日露戦争では、政治、軍事、外交などのあらゆる面で、自らの目や耳で得た情報をもとに冷静に現実を見つめ、なすべきことを実行していきます。

小説『坂の上の雲』は、１９６８（昭和43）年４月22日から１９７２年（昭和47）年８月４日まで「産経新聞（夕刊）」に連載されました。完結50周年となる今回の企画展では、明日のために今できること、を問い続けた小さな国のリアリズムを、事象と人物から描き出します。

渋沢栄一日記　明治35～36年
（国文学研究資料館所蔵）
※実物は5月7日までの公開

会　　期：令和5年2月21日（火）～令和6年2月12日（月）
休　　館　日：月曜日（休日の場合は開館）
開館時間：午前9時～午後6時30分（入館は午後6時まで）
観　覧　料：一般４００円、高校生２００円、高齢者（65歳以上）２００円
　　中学生以下無料　※20名以上の団体割引あり
場　　所：坂の上の雲ミュージアム（松山市一番町三丁目20番地）
お問い合わせ：坂の上の雲ミュージアム　０８９（９１５）２６００

文化情報松山「きらめき」春号　令和5年4月
第100号・毎回1500部発行　非売品
編集・発行／松山市文化協会
（事務局）松山市総合コミュニティセンター内
☎089(909)8008 FAX 089(921)8242
企画取材／株式会社ナガシマ

伊予銀行

銀行を、
人に合うかたちへ
変えていく。
Better Money,
Better Life.
AGENT　HOME　SAFETY　LIFE PALETTE